

令和 6 年 度 事 業 報 告 書

1 事 業 の 実 施 報 告

令和 6 年度の事業は新型コロナウイルスの蔓延も収まり、RASA-Japan (以下 RASA という) の活動もようやく平常な活動に戻りました。

一方、為替相場は急に円安となり、現地通貨 1 ペソが 2.2 円から 2.7 円に上昇によって、22~23%の大幅な円安となりました。栄養失調児救済事業児では、令和 6 年度予算が確定するまでの 4 月 5 月はペソ換算で送金していましたが、資金獲得も難しい状態だったので、6 月予算確定後は、年間予算から送金済額を差し引いた額を月数按分で送金しました。現地での支援物資の量が逡減しました。

(1) 学校建設事業

令和 6 年度の学校建設事業は、急激な円安と鉄材や他の建材費の高騰、人件費も上がり、従来の RASA の学校建設の予算額では、大幅な資金不足となりました。

当初計画は約 800 万円 (3 教室、平屋建て、トイレなし) が円安後、約 1,000 万円へと値上がりしました。この値上がり分は私たちも予測していませんでした。現地教育省が学校内に新たに建設する場合、原則 2 階建て以上で、仮に平屋建ての場合においても、将来 2 階建可能な鉄建材を使用した構造にすることが条件で、従来の平屋建て 3 教室の建物では、許可が下りませんでした。昨今の RASA の経済状況から鑑みて、この事業は当面中止いたしました。

(2) ボランティア派遣事業

学校建設事業でのボランティア派遣は、上記のとおり当面中止となりました。

食品配布支援については、ようやくコロナ禍後海外での活動が可能になってきました。ボランティアを派遣して現地での異文化体験や学校での授業体験、児童や人々との交流を通して、価値観や生き方の違いを知り、生き方を見直す体験ができることで、今まで多くの学生が成長してきた実績から、南山大学から RASA のこの活動の再開をするように要請を受けました。平成 19 年以来長年の学生の現地派遣によるボランティア活動の実績の効果を再度確認し活動再開していただけたわけです。そこで南山大学内でのボランティア募集の具体的な計画を立てました。

梶山女学園大学の RASA の活動を積極的に学生に進めてくださった、担当教授が退任されて後継者が見つからず、梶山女大での募集は不可能になりました。

南山大学では、従来この活動の体験在校生で組織した RASA グループが、学内でボランティア派遣事業の募集活動を行ってきました。全員卒業を迎える 12 月頃から、数人の 3~4 年生の

学生に声掛けし設立要員 5 人が集まった時点で、1 人の留学が決まり、期間内に成立しました。新規の登録を目指し、3 月から具体的な登録に向けての準備に入りました。

ボランティアの活動地は、フィリピンの田舎のマンモス小学校です。RASA が平成 23 年教室建設贈呈を行った後、平成 27 年以降当校における困窮家庭の栄養失調児童への給食支援の依頼を受けて支援を継続。令和 2 年 3 月にフィリピン全土に広がったコロナ禍で、ここも学校閉鎖に陥った。経済の急激かつ大きな落ち込みの影響で、困窮家庭がさらに増え、死者も出た状態を救うために、令和 3 年秋から幅広く大幅な資金獲得に努めて、140 家族に食品配布する支援を継続して 3 年半になります。

学生ボランティアの派遣事業が令和 2 年以降不可能でしたが、従来からの長い RASA の支援のパートナーシップがあり、ボランティア学生の校内での活動に対し、全面協力を得られたのです。

令和 7 年春の活動において、学校内での活動だけでなく、ホームステイによって、家族の一員として生活し、現地での親密な人々の交流や改めて気づいた日本のこと、実体験の重要性、異文化の理解と、人の繋がり大切さに気付きました。

この準備に藤井理事長と後藤理事 2 名が 5 月と 11 月に現地へ出向き、活動目的、人数、内容、日程、参加要件などを活動先の学校長、現地の RASA の支所責任者に協力、理解を求めました。学校側のボランティア受け入れと、彼ら 1 人 1 ホストの受け入れ態勢にそれぞれ協力を求め、快諾を得て大まかなプログラムを決定しました。

【Study Tour 2025】

期 間：令和 7 年 2 月 20 日から 3 月 4 日（13 日間）

参加者：ボランティア 15 名、スタッフ 3 名

6 年生 20 クラスで、15 時限の日本語、栄養、保健衛生の授業を実施し、休憩時間には手作り教材づくりや英語での説明練習をするなど、学校では多忙な日々を過ごしました。息抜きに土曜日の一日をエキスカーションに当て、バスを貸し切り遠方の海で、学校関係者、ホストファミリー、ボランティアと交流を深めることができました。次年度にわたりますが、令和 6 年度の活動の締めくくりとして、令和 7 年 5 月に帰国反省会を実施時に、ボランティア活動参加証明書を授与し、末にボランティアの体験を書いた文集を送付予定。

ボランティア派遣事業費用 2,857,600 円

(3) 栄養失調児救済事業

食品配布支援は、令和3年9月からスタートしました。平成27年から学校が選定した100名の児童に対して校内に設備を支給、調理人雇用し、授業日に学校での給食を令和2年まで全費用を支給していました。対象は5年生、6年生各50名合計100名、電気設備、水道設備、食器調理場と用具、手洗いと歯磨場所新設。コロナ禍で全校閉鎖。翌年9月から新任の学校長の強い要望、閉鎖中に学童やその家族に死者が出る飢餓状態が出て「何とか食事ができるように支援を」—それには救済児童だけでなく家族への食品配布しかないとの訴えで、実施するには、大幅な予算増をどうするか？ RASAのご支援者に熱心に協力を求めた結果、資金が調達できたのです。

配布は学校内で親または児童が受け取ります。配布日来られない家族分は学校で保管し、毎月2回12ヶ月通年で支援しました。食の確保があってこそ「命の確保」ができるのです。日本では考えられない飢餓を救わねばなりません。支所の責任者のDennis氏と家族、その友人の協力があって、配布食品が均等に分けて運ばれ、コーディネーターのチェックによって、配布食品が確実にスムーズに受益者に届いていることを確認できます。食品の購入、運搬、自宅での計量と袋仕分けを協力者に呼びかけ、常に労力を惜しみなく、率先して実行するので周りの人も、自発的に労力の提供をしていただき、協力のネットワークができています。

現在の食品配布の状況

対象人員数・・・140名（学校が選出した栄養失調児、貧困で不登校ぎみな児童）

幼稚園から6学年 7学年から各20名学校が選出

選択年2回・・・1年をSet A、Bの2期に分け、貧困者が多いので、各期に140名ずつ選出

延べ280人を対象にします。出来るだけ公平に多くの児童を対象にするためです。半期終了時に、支援の継続が必要と認められる児童は、次期半期も対象になり、通年支援しますが、約40~50人ほどの児童です。

配布頻度・・・毎月2回配布し、通年配布（休校中2ヶ月間も配布を実施）

配布食品・・・1回： 米5kg、缶詰0~4缶、卵6~10個、粉ミルク4~7袋、
ヌードル1~2袋

クリスマス： 別途支給（スパゲッティ1.6kgとソース等）

費用・・・配布食品費用 令和6年度 4,630,176円

2 会 議 に 関 す る 報 告

通常総会

開催日時 令和6年6月15日午前10時

開催場所 カトリック平針教会会議室（日進市赤池町西組 116-1）

社員人数 27名 本人出席 8名

委任状 16名

審議事項 第1号議案 令和5年度事業報告

第2号議案 令和5年度決算報告

監查報告

議事の概要及び議決の結果…満場一致で可決した。

第3号議案 令和6年度事業計画の承認について

議事の概要及び議決の結果…満場一致で可決した。

第4号議案 令和6年度活動予算の承認について

議事の概要及び議決の結果…満場一致で可決した。

第5号議案 役員の交代について

議事の概要及び議決の結果…満場一致で可決した。

理 事 会

開催日時・・・令和6年5月18日 9:30~12:00

開催場所・・・当法人事務所（名古屋市天白区中平二丁目 2627 番地）

理事総数・・・6名（藤井典夫、藤井忠子、本田直文、寺尾嘉泰、山本良治、山田孝子）

審議事項・・・第15回社員総会の招集とその付議議題の審議

議事の経過と概要及びその議題

議案 第15回社員総会の招集手続きと付議議題の検討

第 1 号議案 令和 5 年度事業報告の件

第2号議案 令和5年度決算報告の件

第3号議案 令和6年度事業計画について

第4号議案 令和6年度特定非営利活動に係る予算について

第5号議案 役員を選任について

月 例 会・理 事 会

開催日と場所・・・原則的には月2回開催 9時半から 12時まで RASA の事務所で開催

メンバー・・・ 理事7名（固定）と社員（自由参加）事務員

議 題・・・当法人が直面する課題、短期的な課題と長期的な課題

会合は必ず議事録を取り次回以降の参考になるようにする。

当法人及び関係団体、個人が関係するイベントなどに関する情報の共有化を図り計画的に業務遂行ができようとしている。会議構成メンバーには、事務局以外に全理事にも含まれているので、内容によっては、理事会としての位置づけをして理事会の結論に繋げる仕組みにしている。

フィリピン出張等 重要な庶務事項

出張者・・・藤井 忠子 理事長、後藤 学 理事

① 期 間・・・5月7日から5月13日までの7日間

場 所・・・ラグナ州のサウスビル I 小学校

内 容・・・校長先生、コーディネーター2名、RASA 支所責任者、後藤、藤井

面談：食品配布の契約再確認 令和7年ボランティアの学校での受け入れ態勢（受け入れのスケジュール：授業科目、時間数、時限、控室の備品の確保、昼食を校内食準備）担当のコーディネーター2名が決まる。

ウェルカム、フェアウェルパーティーのこと、先生やホストファミリー同行の1日行楽のこと。

食品配布家庭の3地域の訪問と視察で実情を知る。

来年ボランティア滞在中に行く、行楽予定地をバタンガスに決定する。

② 期 間・・・11月11日から11月15日までの5日間

場 所・・・ラグナ州のサウスビル I 小学校

内 容・・・ボランティア派遣の協力依頼

校長先生、コーディネーター2名、RASA 支所責任者、後藤、藤井で面談。

令和7年派遣のボランティアの滞在中のホストファミリー15件を選択の依頼を支所責任者にする。ボランティア受け入れてくれるホストの選択依頼。受け入れ条件を提示してそれに合ったホストを選択依頼。ホストと日本のボランティアとの英字 application を事前に交換して準備をスムーズに進めてもらう。

ボランティア滞在中の危機管理：居住地の安全（ビレッジの警備の担当者、24時間交代制）、医療機関、医師名、住所等を把握。

ボランティア活動中のエクスカージョン1日行楽地の調査。バタンガスの地と決めて、学校先生やホストファミリーボランティアと一緒に参加するように計画。1日かけて、実地訪問し、設備や環境の安全を確認し、価格交渉をした。日本から持参した、寄贈の文房具約50kgを学校に持参し、クリスマスなどに配布してもらうことにした。